

政策	I 国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり	施策推進 責任者	企画調整室長・港営部長・建設部長
施策	1 国際・国内海上輸送機能の強化		

重点施策1・施策1

1. PLAN(目的・展開内容)

※シート中、「感染症」とあるのは、すべて「新型コロナウイルス感染症」を指します。

目的	サービスの対象者(誰のために)	船会社、港湾運送事業者、荷主	意図(どういう状態にしたいのか)	船舶の大型化に対応するなどコンテナターミナルの機能強化をするとともに、多頻度、多航路の航路サービスが就航し、中部地域の「ものづくり産業」の持続的な発展を支えていく港
	サービスの対象物(何を)	港湾施設(航路・泊地、岸壁等)や航路サービス等の海上輸送機能		
展開	船舶の大型化等に対応するため、ガントリークレーンの整備やターミナルの拡張など、コンテナ取扱機能のさらなる強化を図るとともに、航路の機能維持・強化への取組をすすめます。 国際競争力を維持・強化しながら、港湾機能を長期的・安定的に維持していくため、継続的にしゅんせつを行います。 名古屋港の立地優位性を活かし、官民一体となった国内外へのポートセールスや、船社や荷主のニーズを的確にとらえたインセンティブを行うことにより、集貨・創貨拡大への取組をすすめます。 安全で効率的な港湾の利用を促し、円滑な港湾の利用に寄与するため、入出港する船舶への情報提供等を行います。 (重点施策1) コンテナ船の大型化等に対応するためのコンテナ取扱機能のさらなる強化や、効率的な完成自動車輸送に向けた完成自動車取扱機能の集約・拠点化等、ふ頭再編への取組を積極的にすすめます。また、AI、IoTなど情報通信技術の活用によるコンテナターミナルの生産性向上やポートアイランドの利活用等、次世代への施策展開につなげていく取組を、関係者と連携しながらすすめます。 港湾整備等に併発するしゅんせつ土砂を長期的・安定的に処分するための新たな土砂処分場の早期確保の取組を、関係者と連携しながらすすめます。 県内3港(名古屋港、衣浦港、三河港)と背後産業のサプライチェーン全体の生産性向上を目指して、関係者が連携して港湾物流機能強化施策に取り組みます。さらに効果的な取組となるよう、伊勢湾全体での広域的な連携もすすめます。			

2. DO(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

(1) 重点施策1

※平成30年度の成果目標値及び実績値は「政策体系2018」の数値を参考として記載しています。

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	30年度			元年度			2年度			目標値 (5年度)	2年度の 状況	2年度実施事業に基づく評価結果			
			上段: 成果目標 目標値			中段: 成果目標 実績値			下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)					3年度以降の方向性		・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等	
			成果	コスト		成果	コスト		維持	維持	拡大			拡大			
重施01事01	飛鳥ふ頭地区ふ頭再編改良事業 (事業推進課)	飛鳥ふ頭地区岸壁(水深15m)(改良)整備進捗状況(全6工程) 【進管理型】	3工程	3工程	4工程	3工程	3工程	3工程	900,483千円	2,225,017千円	2,652,686千円	6工程(累計)	5年度完了	やや遅れ	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	令和2年度の状況は、関係者調整の結果、R1岸壁を極力供用しながら施工することになったことから、事業期間が当初想定したより掛かり、事業進捗状況が「やや遅れ」となりました。方向性を判断した理由は、船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、着実に事業を進めていく必要があるため。なお、目標に対して実績がわずかに達しなかったことから、成果・コストともに「維持」とします。
重施01事02	金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 (事業推進課)	金城ふ頭地区岸壁(水深12m)(新規)整備進捗状況(全5工程) 【進管理型】	3工程	3工程	3工程	3工程	3工程	3工程	1,420,450千円	2,246,447千円	3,566,789千円	5工程(累計)	3年度完了	順調	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	背後のものづくり産業の国際競争力強化に向けて、完成自動車輸送機能の集約・拠点化を着実に進めていく必要があるため。
重施01事03	新たな土砂処分場の確保 (海域企画担当)	新たな土砂処分場の確保に向けた進捗状況(全5工程) 【進管理型】	2工程	4工程	4工程	2工程	3工程	4工程	3,227千円	18,348千円	27,483千円	5工程(累計)	5年度	順調	継続	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。	関係者調整の結果から、本組合が基金を拠出することとなったため。
重施01事04	ポートアイランド利活用のあり方検討 (企画担当)	検討の進捗状況(全3工程) 【進管理型】		1工程	2工程		1工程	2工程		9,676千円	11,430千円	3工程(累計)	5年度	順調	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	利活用のあり方について関係者と議論を重ねていくため。
重施01事05	名古屋港の物流効率化に向けた情報通信技術の活用 (企画担当)	情報共有や協議の回数 【単年度管理型】		3回	3回		3回	4回		9,445千円	9,274千円	3回	目標値を上回る	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	引き続き、情報通信技術の活用に向け取り組む必要があるため。	
重施01事06	愛知県内3港連携・伊勢湾連携の推進 (企画担当)	連携する施策数 【進管理型】		3施策	4施策		3施策	4施策		7,682千円	7,614千円	6施策	5年度	順調	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	引き続き、連携施策を実施していく必要があるため。

(2) 施策1

施01事01	飛鳥ふ頭南コンテナターミナル荷役機械整備事業 (企画担当)	荷役機械の整備・更新した基 数(全4基) 【進管理型】		3基	4基		2基	3基	4基	850,500千円	875,700千円	581,040千円	4基(累計)	2年度完了	順調	完了	名古屋四日市国際港湾(株)は、飛鳥ふ頭南コンテナターミナルにおける船舶の大型化や荷役機械(ガントリークレーン)の老朽化に対応した、荷役機械(ガントリークレーン)の整備を完了したため。	
施01事02	飛鳥ふ頭南ふ頭用地整備事業 (事業推進課)	事業の進捗状況(全5工程) 【進管理型】		2工程	3工程		1工程	2工程	3工程	2,419,900千円	40,903千円	19,886千円	5工程(累計)	4年度完了	順調	延伸	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	土壌調査等の追加により工程の見直しが必要となり、事業延伸が必要となった。 ※今回の評価にて事業完了年度を延伸(令和4年度→令和6年度)
施01事03	飛鳥ふ頭南側コンテナターミナル拡張用地の活用 (企画担当)	取組の進捗状況(全4工程) 【進管理型】		1工程	1工程		0工程	1工程	1工程	0千円	3,670千円	3,664千円	4工程(累計)	5年度	順調	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	拡張用地として確保した用地は、施設整備までの間、有効に活用していく必要があるため。
施01事04	西航路拡幅事業 (事業推進課)	整備面積(全520,000㎡) 【進管理型】		8,914㎡	64,626㎡		8,914㎡	17,829㎡		20,275千円	20,367千円	520,000㎡(累計)	4年度完了	遅れ	継続	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。	令和2年度の状況は、関係者調整等に時間を要したため「遅れ」となりました。船舶が「安全かつ円滑」に入出港できる航路幅・水深を着実に確保する必要があるため。	
施01事05	庄内川泊地整備事業 (事業推進課)	庄内川泊地の埋没により、使用を停止した港湾施設の数 【単年度管理型】		0件	0件	0件	0件	0件	0件	607,750千円	534,893千円	148,343千円	0件	目標値どおり	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	船舶が「安全かつ円滑」に入出港できる泊地の水深維持を着実に進めていく必要があるため。	
施01事06	港内泊地の維持しゅんせつ (海務課)	水深規制解除(全8件) 【進管理型】		1件	2件		0件	0件		305,811千円	332,679千円	1,832千円	5件(累計)	5年度	遅れ	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	令和2年度の状況は、工事調整により、規制対象箇所以外(庄内川河口部)をしゅんせつする必要が生じ、実施したため「遅れ」となりました。方向性を判断した理由は、船舶の安全性確保や港湾物流機能の強化には、引き続きしゅんせつによる水深維持の確保及び全8件の水深規制の解除が必要不可欠であるため。なお、庄内川しゅんせつは、毎年関係者調整を行い、中部地方整備局が施工箇所を決定しているため、成果・コストを「維持」とします。
施01事07	水域施設・係留施設等の管理・運営 (海務課)	公共岸壁の防舷材の健全率 【進管理型】	100%	87%	90%	83.5%	85.2%	84.2%		40,645千円	114,403千円	10,024千円	100%	5年度	やや遅れ	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	令和2年度の状況は、補正予算を確保したものの、年度内での工事完了には至らなかったため、「やや遅れ」となりました。方向性を判断した理由は、施設の状況調査及び計画的な維持管理を継続的に進めることにより、船舶の安全な係留に寄与するものと考えられるため。なお、遅れた工事は令和3年度内に完了予定であり、その他工事は計画どおりとすることから成果・コストを「維持」とします。
施01事08	港湾施設の維持管理 (港湾管理事務所)	損傷による使用停止港湾施設の数 【単年度管理型】		0件	0件		0件	0件	0件	384,326千円	610,174千円	489,461千円	0件	目標値どおり	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	良好な港湾施設を保つには現在の事業規模を確保する必要があるため。	

施01 事09	ポートセールスの推進 (誘致推進課)	名古屋港セミナーに対する理解度(国内) 【単年度管理型】	70%	73%	80%	目標 値を下 回る	継続	維持	維持	貨物及び航路の誘致に際して、セミナー及び訪問による名古屋港のPR及び情報収集は不可欠であるため。 なお、感染症の影響により懇談会及び海外ポートセールスが実施できなかったことから成果目標の実績値は0%となったが、今後の成果は、引き続き目標達成を目指すことから「維持」とし、コストも「維持」とします。
			63.3%	0%				5年度	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	
施01 事10	インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的な使用促進 (港営課)	コンテナ船定期航路数 【単年度管理型】	76航路	73航路	74航路	目標 値どお り	継続	維持	維持	引き続き、船舶の誘致や港湾施設の効率的な使用を促進する必要があるため。
			76航路	72航路				73航路	5年度	
施01 事11	名古屋港を利用する事業者への支援 (調整担当)	支援策の実施率 【単年度管理型】	100%	100%	100%	目標 値どお り	完了	維持	維持	名古屋港の取扱貨物量は回復傾向にあるため令和2年度で完了とします。なお、引き続き名古屋港を取り巻く状況等を注視していきます。
			95,670千円	162,517千円				162,608千円	5年度	
施01 事12	船舶通航情報センターの管理・運営 (海務課)	適切な情報提供ができなかった回数 【単年度管理型】	0回	0回	0回	目標 値どお り	継続	維持	維持	引き続き、適正な無線通信及び船舶監視を行い、安全で効率的な船舶運航を図っていくため。
			0回	0回				0回	5年度	
施01 事13	物流動向の調査 (企画担当)	物流動向調査とりまとめ回数 【単年度管理型】	2回	2回	2回	目標 値どお り	継続	維持	維持	今後の港湾経営を検討する基礎資料として、物流動向等を適切に把握する必要があるため。
			2回	2回				2回	5年度	
施01 事14	港湾統計事務 (企画担当)	月報、年報等作成件数 【単年度管理型】	29件	29件	29件	目標 値どお り	継続	維持	維持	統計データは、名古屋港の港湾経営や港湾計画に活用されており、より精度の高いデータの収集と集計データの提供を行っていく必要があるため。
			29件	29件				29件	5年度	
施01 事15	船席指定事務 (海務課)	適正な船席指定ができなかった回数 【単年度管理型】	0回	0回	0回	目標 値どお り	継続	維持	維持	すべての利用者に対して不平等な扱いとならないよう本組合が適正な船席指定を行う必要があります。
			0回	0回				0回	5年度	
施01 事16	国際バルク戦略港湾の取組 (計画担当)	国際バルク戦略港湾の取組状況 【単年度管理型】	3回	3回	3回	目標 値どお り	継続	維持	維持	穀物輸入を取り巻く環境等を見極めながら取り組んでいく必要があるため。
			3回	3回				3回	5年度	
施01 事17	港湾厚生施設の維持管理 (港営課)	港湾福利厚生施設数 【単年度管理型】	14棟	16棟	16棟	目標 値どお り	継続	維持	維持	引き続き、港湾労働者のために港湾厚生施設を適切に維持管理する必要があるため。
			14棟	16棟				16棟	5年度	
施01 事18	航路体系に係る検討 (計画担当)	海事関係団体との意見交換等の回数 【単年度管理型】	2回	2回	2回	目標 値を下 回る	継続	維持	維持	令和2年度の状況は、感染症の影響により、意見交換会の開催を延期したため「目標値を下回る」となりました。 方向性を判断した理由は、名古屋港を利用する船舶にとって、より安全で使いやすい港としていく必要があるため。 なお、成果については、引き続き目標達成を目指すことから「維持」とし、コストも「維持」とします。
			2回	2回				1回	5年度	

施策コスト(合計)	7,392,014千円	7,611,385千円	8,102,337千円
-----------	-------------	-------------	-------------

3. CHECK(成果目標の状況・2年度の取組内容など)

施策 成果目標	実績等		30年	元年	2年	目標値 [5年]	成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)
	仮目標値*	実績					
総取扱貨物量	トン	2億3,000万	(2億327万)	(2億995万)	2億3,000万	令和2年は、感染症の世界的な拡大により、名古屋港では5月、6月の輸出貨物を中心に貨物量へ大きな影響があり、総取扱貨物量は前年比13.3%減、外貨コンテナ取扱個数は前年比13.1%減と、いずれも仮目標値を達成できませんでした。しかし、総取扱貨物量は19年連続で全国第1位を堅持し、外貨コンテナ取扱個数は令和元年同様全国第3位となり、名古屋港はものづくり産業を物流面で支える重要な役割を果たしています。 両目標値については、総取扱貨物量及び外貨コンテナ取扱個数が回復傾向にあります。引き続き感染症による影響を見極めながら、見直しも含めて検討します。	
	トン	1億9,659万	1億9,444万	1億6,851万			
外貨コンテナ取扱個数	TEU	310万	(310万)	(278万)	(286万)	310万	
	TEU	270万	265万	230万			

※ 仮目標値 = 初期値(30年) + $\frac{\text{目標値(5年)} - \text{初期値(30年)}}{5 \text{年間(中期経営計画期間)}}$ × 30年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	<p>・世界的に脱炭素化の取組が進展する中、多くのエネルギーを輸入する国際物流の結節点で、背後のものづくり産業や人々の暮らしを支える名古屋港において、水素など次世代エネルギーの利活用に向けた取組を新たな事務事業として追加することが必要です。</p> <p>・「新たな土砂処分場の確保」については、関係者調整の結果から本組合が基金を拠出することとなったため、新たに工程を追加する必要があります。</p>
--	--

4. ACTION(課題・3年度以降の取組方針)

(1) 重点施策1

2年度に取り組んだ内容
重施01事01 飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業 国と協議を行い、飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁の水深15m化、耐震化の改良工事を国が実施しました。名古屋四日市国際港湾協会は、本組合からの貸付金を活用して、R1岸壁の荷役機械(ガントリークレーン)の設計・工場製作に着手しました。
重施01事02 金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 国と協議し、水深12mの岸壁(1・2突間)の整備を国が実施し、本組合は、背後の保管用地の造成のための護岸整備を行いました。
重施01事03 新たな土砂処分場の確保 新たな土砂処分場の整備について、愛知・三重両県の漁業者から事業に対する理解が得られたことから、国は漁業補償契約に係る手続を進めると共に、公有水面埋立法に基づく手続を進めることとなりました。これを受け、本組合は、港湾計画の変更を行いました。
重施01事04 ポートアイランド利活用のあり方検討 ポートアイランド利活用にあたっての基本的な考え方を整理し、港湾管理者素案として取りまとめました。
重施01事05 名古屋港の物流効率化に向けた情報通信技術の活用 4月に第5回「サイバーポート検討WG(港湾・貿易手続)、10月に第1回サイバーポート推進WG(港湾物流)、3月に第2回サイバーポート推進WG(港湾物流)に参加し、情報収集を行いました。また、情報通信技術の活用については、関係者へのヒアリングを行い、導入に向けた課題を整理するとともに、民間事業者によるデジタル化への取組に対する支援策を検討しました。
重施01事06 愛知県内3港連携・伊勢湾連携の推進 2019年に創設したLNG/バンカリング制度、愛知県港湾物流ビジョンにおける港湾物流機能強化施策、伊勢湾の港湾ビジョンにおける対応策を継続して実施しました。四日市港と連携したポートセールスについては、感染症の影響を踏まえ、実施を見合わせました。

課題	3年度以降の取組方針
船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、コンテナターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、事業を進めていく必要があります。	関係者調整を行いながら、事業を進めていきます。
関係者調整の結果、保管用地造成の施工方法や施工手順の見直しが必要となっています。	施工方法などの見直しに併せて全体工程を見直し、事業を進めていきます。
引き続き、国による護岸整備の現地着手に向け、関係機関が連携していく必要があります。	本組合が基金を拠出するとともに、関係機関と連携し、関係者の理解を得ながら、国による護岸整備の現地着手に向けて取り組んでいきます。
利活用のあり方について関係者と議論を深めていく必要があります。	港湾管理者素案をもとに、国と協力して関係団体等から幅広い意見を聴取しながら、議論を深めていきます。
国や地元関係者の取組に関する検討状況を踏まえ、官民が連携して取組を進める必要があります。	引き続き、国のワーキンググループへの参画を通して情報収集するとともに、関係者と協議を重ね、情報通信技術の活用に向けて取り組んでいきます。
ポートセールスについては、感染症による影響を踏まえて実施する必要があります。	感染症による影響を踏まえてポートセールスを実施するとともに、さらなる連携施策についても実施していきます。

(2) 施策1

<p>施01事01 飛島ふ頭南コンテナターミナル荷役機械整備事業</p> <p>名古屋四日市国際港湾㈱は、本組合からの貸付金を活用して、荷役機械(ガントリークレーン)の整備を進め、1基(3号機)の更新が完了しました。</p>
<p>施01事02 飛島ふ頭南ふ頭用地整備事業</p> <p>地盤改良工などの設計を行いました。</p>
<p>施01事03 飛島ふ頭南側コンテナターミナル拡張用地の活用</p> <p>令和2年11月に一部の拡張用地を取得しました。また、暫定活用に向け、利用希望者と調整を行いました。</p>
<p>施01事04 西航路拡幅事業</p> <p>国と協議を行い、航路浚渫に向けた調査を国が実施しました。</p>
<p>施01事05 庄内川泊地整備事業</p> <p>庄内川から流入する土砂により港湾施設の利用に支障が生じないよう、浚渫が必要な箇所を協議し国が浚渫を行いました。</p>
<p>施01事06 港内泊地の維持しゅんせつ</p> <p>庄内川しゅんせつについては、水深規制がある79号岸壁及び82号岸壁前面泊地のしゅんせつを協議していましたが、庄内川河口部の流下土砂予防箇所(ポンド)に浅所が見られたことから、下流域への影響を緩和するため、ポンドのしゅんせつを優先しました。</p>
<p>施01事07 水域施設・係留施設の管理・運営</p> <p>令和2年度の防舷材の補修については、防災安全化交付金老朽化対策事業(交付金)にて予算要求していましたが、当年度の予算配分がなされなかったことから、11月補正(単独事業費)にて、予算を確保したものの年度内での工事完了には、至りませんでした。</p>
<p>施01事08 港湾施設の維持管理</p> <p>港湾施設使用許可申請書の受理、利用者調整、施設利用状況及び損傷箇所の確認、港湾施設の補修を行いました。</p>
<p>施01事09 ポートセールスの推進</p> <p>船会社、荷主、商社等との懇談会及び荷主説明会は、感染症の影響により実施を見合わせ、代替として本社機能の集中する東京、名古屋地区に加え、浜松市に所在する企業等に対して名古屋港のPR資料等を直接送付するなど非対面型手法に変更するとともに、岐阜県を対象とした企業訪問についても直接訪問を控え、郵送調査を行いました。更に、周辺の名古屋港利用事業者を訪問し、今後のポートセールスに向けたヒアリングを行いました。加えて、事業者向けに特化したPR動画の作成及び利用促進協議会ホームページの開設準備を行いました。海外ポートセールスについても同様に、感染症等の影響により実施を見合わせました。また、雑誌「名古屋港」を発行し、本港のPRや情報提供を行いました。</p>
<p>施01事10 インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的利用促進</p> <p>入港料及び港湾施設使用料の減免を行いました。</p>
<p>施01事11 名古屋港を利用する事業者への支援</p> <p>全ての事業者を対象に令和2年度分の港湾施設使用料、入港料、水域占用料、行政財産使用料、普通財産貸付料の支払いを令和3年4月30日まで猶予する支援策を実施しました。 ※令和2年4月より中小企業者を対象に9月分までの港湾施設使用料等の支払いを6か月間猶予した。その後、コロナ禍による影響の長期化が見られたことから、対象者や対象期間等、支援内容を段階的に拡充しました。</p>
<p>施01事12 船舶通航情報センターの管理・運営</p> <p>船舶の動静については、VHF無線電話及び船名確認カメラ等を活用し、船舶の位置情報、係留施設への着離岸を把握しました。また、水先人へのタグポートの手配情報、風向風速など気象情報、船舶の運航に係る情報提供を行いました。</p>
<p>施01事13 物流動向の調査</p> <p>感染症による本港の取扱貨物及び企業活動への影響や、5大港における背後地域のコンテナ貨物動向、本港における内貿コンテナの動向について調査研究を行いました。</p>
<p>施01事14 港湾統計事務</p> <p>名古屋港への入港船舶及び取扱貨物量を調査し、月・年毎に集計し国に報告するとともに、港湾統計情報として刊行物及びインターネットにより月・年毎に公表しました。併せて、港湾関係者及び庁内からの諸施策に活用できる統計資料の作成要請に対応しました。</p>
<p>施01事15 船席指定事務</p> <p>週3回のバース会議(船舶代理店等との調整)により入港船舶のバースを決定し、入港料及び係留施設使用料の調定業務を行いました。</p>
<p>施01事16 国際バルク戦略港湾の取組</p> <p>国際バルク戦略港湾推進会議へ参加し、他港の動向の把握を行うとともに、国土交通省へ国際バルク戦略港湾に関する提案・要望活動を行いました。また、穀物輸入を取り巻く環境等の情報収集や穀物関連企業への意向調査等を行いました。</p>
<p>施01事17 港湾厚生施設の維持管理</p> <p>船員船客待合所、公衆便所の委託清掃の実施、また、船員船客待合所の消防設備の点検を行いました。施設を良好な状態に維持するとともに、快適な港湾労働環境を形成することができました。</p>
<p>施01事18 航路体系に係る検討</p> <p>シミュレーション調査を実施し、管制により待機する船舶の隻数や待機時間等の比較・分析を行いました。</p>

<p>飛島ふ頭南コンテナターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、関係者調整を行いつつ、事業を進めていく必要があります。</p>	<p>関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていきます。</p>
<p>暫定活用については、将来の施設整備に支障が生じないものとする必要があります。また、拡張用地全体の確保に向けて準備していく必要があります。</p>	<p>確保した用地については、引き続き暫定活用に向けて関係者と調整を進めます。また、拡張用地全体の確保に向けて残りの立地企業との情報交換を進めます。</p>
<p>関係者調整の結果、全体工程の見直しが必要となっています。</p>	<p>全体工程を見直し、着実に事業を進めていきます。</p>
<p>今後も浚渫が必要な箇所を精査し、港湾施設の利用者との調整を行いながら着実に事業を実施する必要があります。</p>	<p>引き続き、浚渫が必要な箇所を精査し、港湾施設の利用者との調整を行い、着実に事業を進めていきます。</p>
<p>水深規制解除箇所以外にもしゅんせつが必要となる箇所がある場合、関係者との調整等により、優先度の高い箇所から、しゅんせつを行うこともあり、必ずしも毎年水深規制解除が行われるとは限らない状況にあります。</p>	<p>関係者との協議を行い、しゅんせつ、水深規制解除が行えるよう調整を行います。</p>
<p>補修が必要な防舷材は、年々増加しており、限られた予算の中で計画的に行なっていく必要があります。</p>	<p>港湾施設の維持管理に係る港湾施設等アセットマネジメント推進計画に基づき、施設の利用頻度や損傷具合により、優先順位を付けながら、維持管理を行っていきます。</p>
<p>施設の老朽化が進行しており、修繕に加えて大規模改修を行わないと利用者の要望に応えられないだけでなく、利用不可能な箇所も発生しうる状況です。</p>	<p>利用者の要望に応えるため、提供施設の改修等を計画的に実施していきます。</p>
<p>感染症の影響により、対面型の行事を控え資料発送等に変えましたが、プレゼンテーションの実施等ができなかったため、運営手法を検討する必要があります。引き続き、情勢の変化に柔軟に対応しながら、名古屋港背後圏においてアクセス整備の進む中、船会社、荷主、商社等の利用者ニーズの把握に努め、官民一体となったポートセールス活動を継続して行うことにより、名古屋港の利用を促進していく必要があります。</p>	<p>感染症の影響により事業実施が困難な状況ではありますが、感染症の状況を注視しつつ、会場とオンライン参加を組み合わせた安全安心で効果的なセミナー等を実施します。また、令和2年度に制作した名古屋港のPR動画を活用し、官民一体となったポートセールス活動を行うとともに、姉妹港・パートナーシップ港を通じた海外最新事情の収集、港湾振興誌による情報発信を行います。なお、成果については、感染症対策をしつつ実績値の向上を目指していきます。</p>
<p>船舶の誘致や港湾施設の有効な活用を促進するため、利用者のニーズに合ったインセンティブを幅広く検討する必要があります。</p>	<p>他港のインセンティブの調査等を行い、取扱貨物量の増加、船舶の誘致、港湾施設の有効な活用及び取扱機能の集約・拠点化に寄与するインセンティブを検討します。</p>
<p>さらなるコスト削減及び業務効率向上のため、取り組んでいる名古屋港無線局の全面委託化を図る必要があります。</p>	<p>令和4年度からの無線局の全面委託化に向け、国際VHF無線通信機器、高潮東信号所等の設備の維持管理のあり方について検討します。</p>
<p>港湾を取り巻く環境変化や背後圏企業のニーズに対応するため、幅広く情報収集する必要があります。</p>	<p>引き続き、社会経済情勢、港湾を取り巻く環境変化を注視しつつ物流動向について調査研究していきます。</p>
<p>統計データは、名古屋港の港湾経営や港湾計画に活用されており、より精度の高いデータの収集と集計データの提供を行っていく必要があります。</p>	<p>NACCSデータの活用等、データ作成に応じたシステムの更改等により運用経費の削減を行うとともに、より精度の高いデータを提供していきます。</p>
<p>西部(飛島・弥富)地区への倉庫等の企業進出が進んでおり、飛島ふ頭や弥富ふ頭において、在来船の恒常的な混雑が発生しています。また、平成30年12月から金城ふ頭1.2突間の埠頭用地整備が開始され、埋め立てに伴い5バースが廃止となったことから、金城ふ頭における在来船の混雑が発生しています。</p>	<p>荷役作業や船型等を考慮し、利用者(船舶代理店、船社・港湾運送事業者)の意向を最大限に反映できるように、適正な船席指定を行います。</p>
<p>穀物輸入を取り巻く環境や社会経済情勢が大きく変化していることから、関係者の意見を十分に聞きながら進める必要があります。</p>	<p>引き続き、国際バルク戦略港湾推進会議へ参加して他港の動向等を把握するとともに、穀物関連企業や国と協議を行っていきます。</p>
<p>港湾厚生施設の多くは老朽化が進んでおり、快適な港湾労働環境の形成を図るため、維持管理計画に基づく補修、(公財)名古屋港湾福利厚生協会の協力による適切な管理を行う必要があります。</p>	<p>維持管理計画書及び港湾施設等補修スケジュールに基づき、適切に維持管理していきます。</p>
<p>施設整備と規制緩和等のハード・ソフトの両面から検討を進める必要があります。</p>	<p>利用者のニーズを把握しながら、関係者と連携して船舶交通環境の改善に資する取組について検討を進めます。なお、成果については、感染症対策をしつつ実績値の向上を目指していきます。</p>